



▼作木村市街地

双三郡作木村



第8号

昭和50年8月31日

発行人

野村節也

編集人

永井又太郎

印刷所

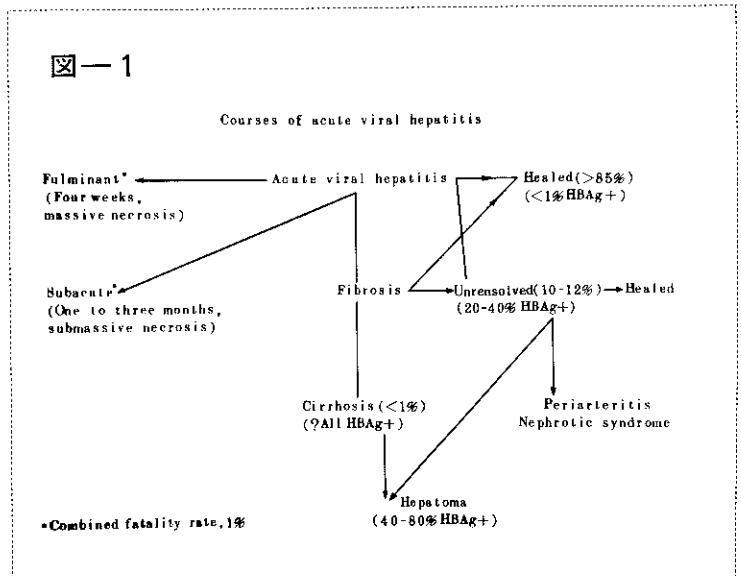
広島県双三郡吉舎町

佐々木印刷株式会社

肝疾患診療 最近の進歩

広島赤十字病院内科
木村直躬

図一 1

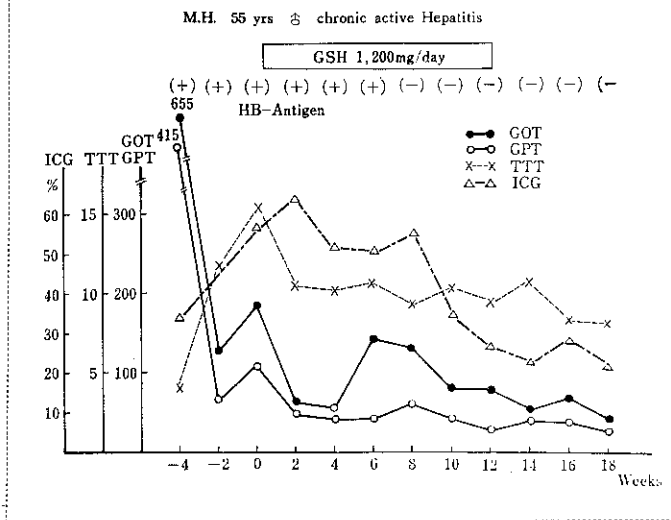


最近の肝臓病の研究の進歩は、目ざましいものがあり、枚挙にいとまがないが、今回は特に、日常診療に関係の深いものを取りあげてみたい。

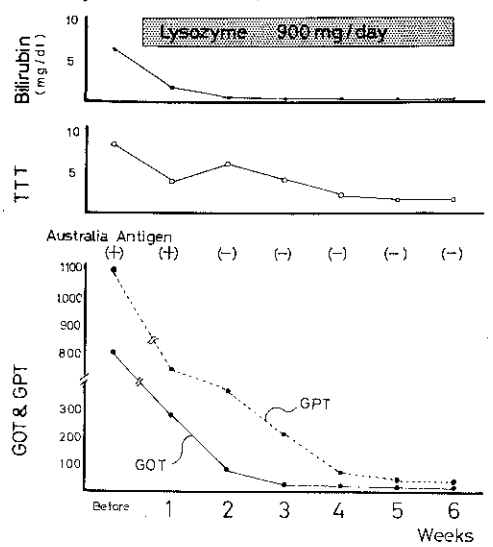
(1) 工田抗原と肝炎の治療

Blumbergらによって発見されたオーストラリア抗原は、その後の検索がすすむにつれて、肝炎と密接な関係を有することが、明らかとなり、最近ではB型肝炎抗原(田抗原)とよばれている。そして、図1に示す如く、慢性肝炎、

図-3



21yrs. Female Hepatitis acuta.



Effect of Large Dose of Lysozyme on Liver Function Tests in acute Hepatitis

肝硬変症、肝癌に於いても、かなり高率に検出されることから、肝炎の進展、慢性化、癌化に於ける関与は明らかとみなされている。

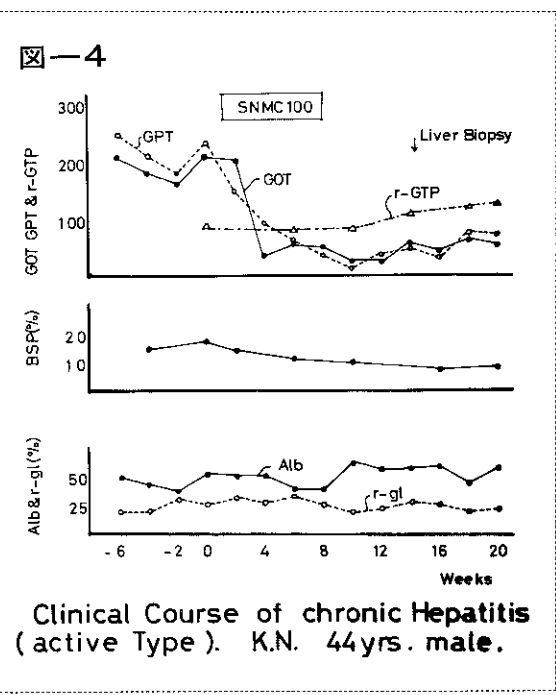
最近 Almeida らは、オーストラリア抗原の内部抗原の検出に成功し、従来のHB抗原、Surface抗原 (HBs抗原) に対して、Core抗原 (HBc抗原) とよび、これが真の感染因子であるとしている。今後このHBc抗原を中心として、液性免疫、細胞性免疫の両面からの研究がすすみ、肝炎の進展に於ける免疫学的解明が期待される。

ところで急性肝炎に於けるHBs抗原の検出率は、約40%前後であるとされているが、種々の報告をまとめてみると、大体発病後、13週以内に陰性化するとされている。HB抗原の持続陽性が即、肝炎慢性化に結びつくか否かは、未だ問題のあるところであるが、臨床的にはHB抗原を陰性化させる必要があると思われる。そこで我々は、次の様な二つの方法を試みている。

即ち、①抗ウイルス性作用があると考えられている塩化リブチムを大量に使用する方法である。我々の成績では図2の如く、肝炎の早期軽快、HB抗原の早期陰性化を得ている。

次に②HB抗原がS-S結合を多数有する Polypeptide (ペプチド) とに注目し、グルタチオンを大量

に使用することにより、S-S結合を切断し、HB抗原を陰性化し、ひいては肝炎の進展、慢性化を阻止しようとの試みである。(図3)。我々はこの方法により、HB抗原持続陽性慢性活動性肝炎5例中2例に陰性化する成績を得ているが、この方法はHB抗原の本態の解明の手がかりともなり得ることと考えられ、非常に興味あるものと考えられている。一方、慢性肝炎の分類は我が国に於ける犬山分類、或はヨーロッパ分類により整理され、理解し易くなって来たが(図4)、我々の第一線病院では慢性肝炎で、GOT、GPTが高値を持続する、いわゆる“Transaminitis”と思わ



Clinical Course of chronic Hepatitis (active Type). K.N. 44yrs. male.

れる症例が数多く存在し、その対策に悩むことがしばしばある。

この様にトランスアミンナーゼが高い慢性肝炎に対してグリチルリチン (150~100mg/日) を使用してみると dramatic にトランスアミンナーゼが下る (図5)。この作用機序は未だ明らかでないが、非常に興味ある事実であるので、臨床的に一度は試みてみるべき方法であると考えている。

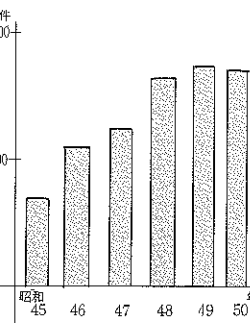
しかしながら、組織学的観察では、殆どの例で炎症は抑制されているものの、線維化はむしろ増加している成績を得ているので、その使用及び効果判定には慎重な態度でのぞむ必要がある。

臨床検査センターの概況について

検査センター所長 土岡正法

昭和四十四年十月に双三地区医師会館が建設され、それと同時に臨床検査センターが少しづつ業務を開始してはや満五年を迎える事になりました。

その間、幾多の不安がありました。依頼検査件数およびご利用いただく医療機関数も年々少しづつ増加し、順調に発展しつつあります。当医師会員の諸先生方をはじめ隣接する県北各地の諸先生方ならびに県医師会のご支援の賜物と感謝致しております。



次に検査センターの概況をご報告させていただきます。

一、依頼検査件数
昨年までは前年と比較して約一〇〜三〇%多ずつ年々増加しておりますが、今年度四月から七月までについて昨年と同じ時期と比較しますと、
四十九年度 六八、四五〇件
五十年年度 六八、七二〇件

とほとんど同じ件数でした。

このことは沿岸部の人口増加の著しい地区と比べ、人口のあまり変動のない地区を対象としている当検査センターとしては止むを得ない事と思います。

又、学校児童生徒ならびに住民の医療対策としての集団検査数もやはり昨年に比べほぼ同数でした。

四十九年度 二一、〇〇〇件
五十年年度 一九、一〇〇件

一方昨年十月一日に検査点数の改正があり、又五十年一月十五日に特定検査用試薬の薬価基準の一部改正がありましたので、検査収入は前年と比べて約三六%増加しております。

二、機械設備

検査業務の自動化のために、四十九年六月、日立五〇〇自動分析装置を購入し、血清蛋白、AG比、GPT、GOT、ZTT、アルカリホスファターゼの六項目の検査を実施しています。

これにより精度および能率の向上が出来、特に集団検査等の多量の検査物処理には威力を発揮しております。

又ナトリウム、カリウム同時測定用蛍光光度計とクロール測定器（ともにコーニングエバンス社製）を購入しました。

前者は精度の上でも同時測定のため、能率の上でも従来の測定器より優れ、測定時における不安

定も除去出来ました。

後者は依頼検査件数一か月当たり約五十ないし百件と少ないのですが、従来は水銀化合物による測定でしたので、環境汚染、水質汚濁の点から強く対策が求められております。昨今ですから、これに対処すべく購入しました。

その他 顕微鏡一台

電子計算器一台

三、集配業務
当初三次市、双三郡、庄原市を週二回ずつ巡回しておりましたがこれに高田郡を加え、更に四十八年五月末より世羅西地区を加え週三回ずつ、担当者二名にて巡回しております。

今年四月一日よりパートタイマー二名により三次、十日市両町内のみ毎日集配を実施しております。その結果一か月当たり約百件（検体数）増加しております。

その他比婆郡東城町、比和町、神石郡神石町など遠隔の地からはケンコー産業、光洋薬品、河野薬品、杉本薬品など各医療業者の方々が検査物を持ち帰っていただいている現状です。

四、従業員

設立当初五名にて発足した従業員は現在次の通りになっています。事務職員 三名（男性）但し二

名は集配業務兼務

検査職員 十一名（男性四名）（女性七名）

パートタイマー 三名（但し一名は検査報告事務専任、他の二名は集配業務担当）
以上パートタイマーを除く従業員総数は十四名であります。

あとがき
以上検査センターの概況を報告致しましたが、依頼検査件数が近い将来構はいい状態になることも予測され、前途に不安が無いわけではありません。

今後更に精度の向上に努力し、併せて医学の進歩にともなう新しい検査項目の実施がセンターの課題かと思えます。

一方すでに指摘されている如く治療医学から予防医学への変遷を考えますと、検査センターの業務も学校児童生徒、地域住民の健康管理としての集団検査への進出が予測されます。それにとまなない一層の合理化のための機械化が求められ、当然これの維持、償却等財政的問題も追隨することでしょう。

それと同時に環境汚染の問題から有害試薬の排除および排水処理等避けられない問題も多く、あわせて公害関係検査業務の開拓も将来の課題と思えます。

アンケートの概要

去る七月下旬、双三地区医師会では、野村会長の名義で、諸先生方に「巴杏」と「緊急医療対策」

についてアンケートを実施した。このアンケートにご多用中ご協力下さった諸先生に対して、厚くお礼申し上げます。

結果は左記のとおりです。
八十六名の会員に発送し、八月二十日現在四十名（四六・五一%）の回答を得ました。

抗動脈硬化剤
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性
血管透過性亢進阻止剤
ANGININ

BANYU PHARMACEUTICAL CO., LTD

新 広域合成ペニシリン
パセトシン® カプセル 細粒
「日抗基」アモキシシリン製剤
薬価 ■125mgカプセル137.40 ・250mgカプセル268.00
■細粒1g 197.60
協和醸酵 特許許諾 英国ビーチャム社

その四十名のご回答によりご報告申し上げます。

I、巴香について

。ご希望、ご意見がありますか。あり 四人 一〇%

。会員に積極的の随筆、俳句、何でも投稿を望む。

。会報である以上、余り医療面での具体的な又は、同面における報告はさけられない。

なし 三十六人 九〇%
。お読みになっていきますか。読んでいる 三十七人 九三%

あまり読まない 二人 五%
読まない 一人 二・五%

II、緊急医療対策について

。必要があると思いませんか。ある 三十七人 九三%

。災害時の際は、必要あると思われるが、日常の患者についての意味ならば不必要、現行のままよいと思いませんか。

なし 三人 七・五%

。場所は、次の何処が適当であると思いませんか。

。双三中央病院 三十四人 八五%

その他 一人 二・五%

。双三中央病院又はその他 三人 七・五%

。記入なし 二人 五%

。資金源について (a)市町村より 三十一人 七七・五%

(b)医師会より

。医師会の場合は、医師会病院を建設する事が必要 (c)記入なし 六人 一五%

III、その他の希望事項

(諸先生の希望)

。運営方法を検討して場所等を考えられたい。

。役員会・理事会等の協議事項の決及びセンターの中間報告等を紙面で告知出来る範囲内の内容については、会員に知らされたい。

。中央病院の当直医は、内科、外科一人宛が望ましい。緊急を要する場合、内科一人の為断わられる事が非常に多い。それと緊急の為の部屋を準備しておくこと。

。当直医の時、食食様のクランケには困ります。福祉にも何もしてくれないし、手続の方法も特にない様です。この様な人は、治療後も帰りません。

。緊急医療対策は、早期に何んとかお願いしたいと思いませんか。特に夜間の手術適応患者に困っております。

。質問の要旨が、大略にて判断しかねます。

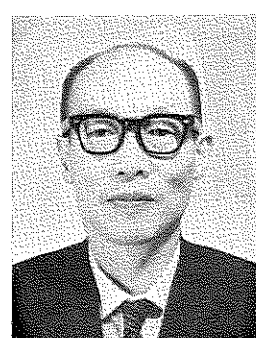
。重要な事項ですから、じっくり案をねって頂きたい。

。アンケートの意味が判らない。現代の専門化された単一医療機関で、緊急医療を行う事は、至難な道である。依って総合病院内に設立すべきではなからうか。

(永井記)



得能長絃先生



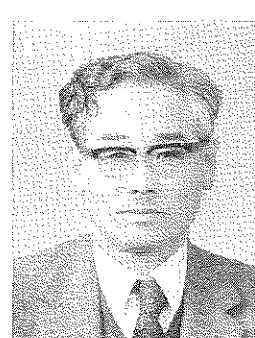
大正四年八月十日生
広島一中、松山高校を経て、昭和十八年九州帝大医学部卒、同大学放射線医学教室に入局、昭和二十一年当地に開業。
医師会関係
理事四年、副会長十一年、会長五年

開業医三十年の三分の二を、医師会にタッチして来て、医師会の変遷を具さに体験してきましたが、一番大切な問題の一つである、医療費問題について見ますと、現在でも医療費は、我々の要求する適切な医療費とは、程遠いものであります。それが、昔に比較すれば雲泥の差で、昔は随分ひどい審査で、低医療費政策を遂行する為、時には、全会員の半分とか、三分の一とかを、三次に呼び出し、個人、個人について指導し、減点したものです。
現在も、勿論不満の多い医療費ではあります。然し私は、武見

医師会長の在任する現在が、戦後の長い経過の中では、最も良い時代ではないかと言った感じがします。又今後も、諸般の状況は、総て開業医にとつて、益々きびしく、将来は次第に暗いものになるであらう。

医師会を見て、久しく十二年で固定していた医師数は、昭和六十年には五〇%増、昭和七十年には一〇〇%増と言った増え方をすると思われ、設備投資の資金増と相まって、将来は次第に難しいものになるのではないのでしょうか。
若し先生方は、熟考の必要があるのではないのでしょうか。

林 正喜先生

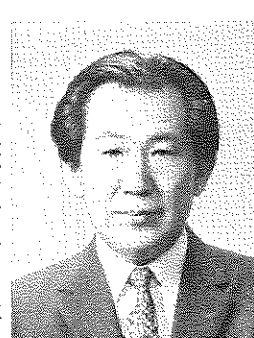


大正五年比婆郡口和町で生れる昭和十三年東京医専卒
宇部市沖山同仁病院内科に勤務
同年林家へ入籍
同年十月短期現役軍医として入隊翌年戦地(中文)へ渡る。死線をくぐったこともあり二十三歳の若さで生と死を考え、生きることの素晴らしさをつくづく感じさせられたものである。ともかく青春時代は戦争に振り回された。
二回目の召集では原爆投下直後の広島へ入り、僅かの時間差で一命が助かったがあの時の状況は言語に絶するものがあつた。
何も彼も不安定な今の世の中で

あるが、何としても頂けないものに国鉄ストと男の長髪がある。
長男(内科医)は嫁、孫二人と広島に住んでいるので、平素は家内と娘と私の三人で暮らしている。文字通りの田舎医者であるが、それだけに地域の人々との交わりは心温まるものがあり顧みて悔いはない。

これからは医療のかたわら好きな農作業もやりたいし盆栽もいじりたいとして何よりも暮がうちたい。

佐竹章弘先生



大正六年二月十四日生
三次市和知町三一ノ一
凡そこの世に生を受け、人生僅か五十年は何時の間にか過ぎ去り振り返るすきもなまに現在に至りました。時代には歴史がある様に我々個人には少年時代より、老後への希望と目的があり何時の日かそれが心の中に思い出として残っております。私の生涯の中で最も深い印象、それは戦争でした。生命を賭けて日本国のためと親や兄弟を捨てた僅かな数年でしたが、それは十数年百数十年の貴重な体験でした。平和から生と死への交錯した巷の中へ命令一下突入抵抗なき人生、唯これ等の事柄は時代の人間生活における仮定であり歴史の中の一行事に遭遇したと言えは簡単かも知れません。然し

現在、人の生命への最も深い関連性のある医業に携わり、ここ迄自分は生命の貴さに真剣だろうかとそれに応えているであろうかを考へる程に無量なものがあります。私は昭和二十八年現地に開業し早二十三年の歳月が過ぎました。開業当時一番若かった自分を可愛がっていたた今は亡き諸先生方のそれぞれ違った人柄を、懐しく思い浮かべ感謝の気持で一杯です。現在は悲しかった事、楽しかった事が次々に走馬燈の如く脳裏を過ぎ去り、人情紙の如く薄き世の中の中に毎日の如く同じ事を妻と二人だけで医業に過ごしており

医師会だより

(昭和五十年六月)
昭和五十年七月

6月21日(七)
故紙屋三次市長市葬
於、三次文化会館
野村会長参列
6月26日(木)
医学講演会
講演
「血栓の線溶活性と線溶療法について」
講師
名古屋大学医学部分院外科
伴 一郎先生
臨床使用経験報告
「片麻痺と失語症を合併した脈なし病及び中大脳動脈血栓病に対する線溶酵素剤の使用経験」
双三中央病院内科・若本敦雄先生、目崎育弘先生、加美川弘之先生、毛利昭先生、松本

ます。子供は三人皆男で、孫も二人ありますが、三男が未だ医大在学中なれば、六十五歳迄はと心に鞭打って働いております。母は早八十五歳、未だ私を子供の如く色々と注意をしてくれます。親なればこそ心の中でそっと手を合わす気持です。色々と愚ぬ事を述べましたが、最後に医師会の諸先生方に日頃のご無沙汰をお詫び申し上げます。



隆充先生、岩崎之純先生。
後援 持田製薬KK
ケンコー産業KK

7月18日(金)

第十回(八号)「巴杏」編集委員会
於、石田無線
出席者・野村会長、永井、箕岡、藤谷各委員
協議事項
。「巴杏」編集委案内状は、編集委員長名で発送のこと。執筆依頼をした場合は、必ず所定の原稿用紙を使用し、て貰うこと……。このことは、再度会員に願います。他の用紙を使用し、届けられた場合は、その転記作業を各委員で分担する。原稿提出期日は、厳守して貰うこと。

。全写真掲載
。作木村(担当、田中先生)
。学術関係記事
7月25日の医学講演会の抜粋記録を原稿用紙10枚程度に収録(担当、藤谷先生)
。随筆 小川果二先生

(担当、永井先生)
。検査センター概況
(担当、土岡先生)

。会員紹介
林正喜先生、得能先生、佐竹先生。

。原稿締切 8月20日
。緊急医療対策についてのアンケート別紙。
締切 7月31日

7月21日(月)

吉舎町敷地、金上豊子さん(広島医学技術専門学校二年在学)本日より実習
7月22日(火)
三和町羽出庭、塚村裕子さん(広島医学技術専門学校二年在学)本日より実習

7月25日(金)

学術講演会
演題
「肝疾患診療の最近の進歩」
講師
広島赤十字病院内科、木村直躬先生

7月29日(火)

昭和50年度第一回理事会
於、双三地区医師会館
午後四時~七時
出席者・野村会長、鳴戸副会長、高場副会長、田中、永井、長船、藤谷、板橋、三浦、岡崎、箕岡各理事。

協議事項
1. 三次保健所長より、地域保健対策協議会結成についての概要の説明と双三地区医師会の協力方につき要請あり。
。予算六十万円の予定(市町村三十万円、県三十万円)
。所長が、地対協結成につき動員に出向く場合、地域の医師会員は、同道の上、側

面援助してほしい。
。双三地区医師会は、協力する意向のある事を会長室前。

2. 結核審査委員を鳴戸副会長より、野村会長に変更の報告あり。

3. 会員死亡の場合の特例について
「会員が死亡し、後継者(その範囲は後日詳細を決定する)がその医業を継ぐ場合は、最高十年間の猶予期間を認め、その間の入会金及び建設負担金は免除する」この項は、管理規則に付則として挿入する。

4. 中村重孝先生叙勲について
中村重孝先生叙勲を祝して記念品を贈呈した。
同例に対しては、将来は、ケースバイケースで決める。

5. シュワイツァー財団に対し五千円寄付
6. 高場副会長より
医師国保について概要報告

(永井記)

編集後記

台風五、六号が、日本中で荒れ狂い、多くの被災者を出した事は誠に気の毒な次第である。
幸い、当地区では、たいした被害もなく台風一過の平穏な毎日が続いているが、四七・七豪雨当時の事を思い出すとゾッとすると朝夕は、めっきり初秋の涼気に包まれ、三次盆地特有の霧も立ちこめはじめた。
複雑な世相の中で、依然としてインフレの波は、すぐには治まりそうにない。
会員諸先生方の一層のご健闘とご多幸をお祈りします。
(永井記)

鎮痛・抗炎症剤

バンブラミン®カプセル

一般名=塩酸チノリジン (単位当り ¥28.00)

製造=吉富製薬株式会社
販売=武田薬品工業株式会社

消化器系鎮痛・鎮痛剤 Daipin®

上腹部痛に制酸剤の効果持続に...

ダイピン錠

一般名=Nメチルスコラミン・Nチル 硫酸塩 識別番号106

第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

CERM 株式会社・フランス製薬品